

## 1 法人の概要

## 1) 沿革

昭和15年12月28日	財団法人村上学園設置認可
16年4月1日	布施高等女学校開校
22年4月1日	布施高等女学校附属中学校開校
23年4月1日	新制高校の発足により布施学院高等学校と改称
24年2月15日	布施女子高等学校、同中学校と改称
26年3月13日	財団法人村上学園は学校法人村上学園となる
28年4月22日	学校法人村上学園布施女子高等学校附属幼稚園開園
38年4月1日	学校法人村上学園柏原女子高等学校開校
39年1月25日	学校法人村上学園柏原高等学校と校名変更、男子部を併設
40年1月25日	布施女子短期大学（42年4月、東大阪短期大学と校名変更）家政科設置認可を得、開学
41年1月25日	布施女子短期大学保育科を増設
43年4月1日	家政科を家政学専攻と食物栄養学専攻に分離認可
44年4月1日	保育科を幼児教育学科に改称（47年3月廃止）
45年2月9日	児童教育学科設置認可を得、同年4月1日開設
45年4月1日	家政学専攻を服飾デザイン専攻に改称 柏原高等学校、女子部を廃止
48年4月1日	児童教育学科を初等教育学と幼児教育学に専攻分離
63年3月31日	東大阪中学校廃校認可を得、廃校
平成11年7月28日	児童教育学科の初等教育学専攻の募集停止届出
12年3月1日	家政学科に生活福祉専攻設置認可を得、同年4月1日開設
13年3月31日	児童教育学科の初等教育学専攻廃止届出
13年5月15日	校名変更認可、平成14年4月から東大阪高等学校を敬愛女子高等学校と改称
14年4月1日	児童教育学科を幼児教育学科に、服飾デザイン専攻を生活デザイン専攻に名称変更
14年12月19日	東大阪大学設置認可、平成15年4月1日開学 校名変更認可、平成15年4月から東大阪短期大学を東大阪大学短期大学部と改称
15年1月24日	校名変更認可、平成15年4月から東大阪短期大学附属幼稚園を東大阪大学附属幼稚園と改称
15年4月1日	東大阪大学こども学部こども学科開学
18年4月1日	敬愛女子高等学校を東大阪大学敬愛高等学校に名称変更 柏原高等学校を東大阪大学柏原高等学校に名称変更 東大阪大学短期大学部家政学科を健康福祉学科に、食物栄養学専攻を健康栄養専攻に名称変更 家政学科生活デザイン専攻を平成18年度より募集停止
19年3月31日	家政学科生活デザイン専攻廃止届出
22年3月31日	東大阪大学敬愛高等学校商業科廃止
22年4月1日	健康福祉学科を健康栄養学科に名称変更

健康栄養学科生活福祉専攻を平成22年度より募集停止

23年 3月31日 健康栄養学科生活福祉専攻廃止

23年 4月 1日 東大阪大学こども学部アジアこども学科開設

28年 4月 1日 東大阪大学短期大学部健康栄養学科を実践食物学科に、幼児教育学科を  
実践保育学科に名称変更

## 2) 設置する学校・学部・学科（平成28年度）

- (1) 東大阪大学 こども学部 こども学科  
アジアこども学科
- (2) 東大阪大学短期大学部 実践食物学科  
実践保育学科
- (3) 東大阪大学敬愛高等学校 普通科（全日制課程）
- (4) 東大阪大学柏原高等学校 普通科（全日制課程）
- (5) 東大阪大学附属幼稚園

## 3) 当該学校・学部・学科の学生数（平成28年5月1日現在）

学 校 名	学部・学科名	学生・生徒数
東大阪大学	こども学部	256
東大阪大学短期大学部	実践食物学科	51
	実践保育学科	124
東大阪大学敬愛高等学校	普通科	853
東大阪大学柏原高等学校	普通科	771
東大阪大学附属幼稚園		256
合計		2,311

## 4) 役員・教職員等の概要（平成28年5月1日現在）

- (1) 役員 理事 7人  
監事 2人
- (2) 評議員 15人
- (3) 教職員 343人

	教 員		職 員		合 計
	専任	非常勤	専任	非常勤	
法人部門	0	0	9	10	19
東大阪大学	24	28	17	10	79
東大阪大学短期大学部	27	20	17	6	70
東大阪大学敬愛高等学校	47	14	6	0	67
東大阪大学柏原高等学校	55	12	10	6	83
東大阪大学附属幼稚園	17	0	6	2	25
合 計	170	74	65	34	343

## 2 平成28年度事業計画における進捗状況等

### 1. 目標管理制度の充実

各教員に教科指導・学級経営・校務分掌の3つの分野に関して目標を持たせ、数値化できる項目、内容については数値化した目標を提出してもらった。しかし、今度は新校舎建築と新校舎への引越作業に忙殺され、中間と最終個別面談が実施できなかった。

### 2. 教科指導の充実

#### イ) 研究授業

昨年度は全教科研究授業を行い、多数の教員が参加し、授業の研究、向上に向けてよい研修となったが、今年度は新校舎建築と新校舎への引越作業で実施できなかったため、次年度は早い時期の実施と、事後研修の拡充を図っていく。

#### ロ) 生徒による授業アンケート

今年度も授業について、「話し方」「板書」「説明工夫」「副教材」「難易度」「進み方」など10項目について生徒の評価を5段階に分けてアンケート調査を実施。また、文章による評価、感想、希望する改善点についても具体的に記入。個別に改善が必要な項目を校長より指摘。改善方法とその効果を目指管理制度の中で確認した。

#### ハ) プロジェクター

桃友会(同窓会)からの寄贈により新校舎すべての教室にプロジェクターを設置し、機器を使っ  
ての授業を全教科で取り組んでもらった。

### 3. 生徒指導について

#### イ) 問題行動の指導について

新校舎に移転することに伴い、指導項目を増やしたが、やはり女子の化粧と男女とも携帯電話の件数が多く、対策が急務である。クラスごとのポイント率も計算しているが、ポイントを取る率は留学生クラスが圧倒的に多く、今後ますます増加する留学生への指導を徹底する必要がある。イエローカード指導が7ポイントでの停学となって2年目であるが、問題行動の指導案件、イエローカードも昨年より増加する結果となり全体的な規範意識は逆に低下したように思う。今後の指導規定をどうするか、さらなる改革、改定、時代に合わせた変化が必要である。また、SNSなどでの友人関係のトラブルは毎年のように問題として挙がっており、未然に問題行動を防ぐなどの啓発が必要である。

#### ロ) 生徒相談

相談者数：1年3名 2年1名 計4名(9月より相談受付開始)

相談内容は、不登校、自傷行為、家族との関係、友人関係などの悩みが中心だった。対応については、学年主任、学級担任、保健室と連携し、相談しながら進めた。保護者とも面談し、情報共有、専門機関への受診の依頼、学校での対応等についての話をした。今年度は、大学カウンセリング室での相談対応が不可となり、急遽、養護教諭が行う健康相談活動として対応した。サポート室希望の生徒は、原則専門機関の診断書が必要となった。

### 4. 生徒会指導について

#### イ) スポーツ大会

大半の生徒はスポーツ大会の実施を肯定的にとらえ満足していると思われる。全学年実施に伴い他学年との試合数が増加し、アンケート結果より同学年との試合を多数できるような試合スケジュールが必要。次年度のスポーツ大会は種目、実施方法を再検討し生徒たちが満足できるものにする。

ロ) 体育大会

生徒の意見は全体的に肯定的であった。種目の練習を体育科と連携し、レベルを上げて競争ができるように協力依頼していきたい。今年度は新校舎建設につき、クラス旗の作成を行わなかった。生徒たちの大半はクラス旗の作成をしたいという意見が多数を占めるので、作成時の注意点などを検討し来年度作成できるような形をとれるようにしたい。今年度は休日開催のため、保護者に多数来校頂くことができた。保護者用テント・観覧席の設置場所を検討する。

ハ) 敬愛祭

来場者数が年々増えているので、喜ばしいことだが、来年度前庭の工事も終了予定なので、今までと根本的な改革が必要。前庭屋外ステージなど有効活用していきたい。模擬店参加クラスの検便未提出者について検討が必要。演芸部門について、時間超過やオーディションに出ていない生徒の出演などルールを再検討し、次年度は時間をオーバーすることのないようにする。アンケート結果と生徒会役員の意見などより、来年度の実施内容を検討する。

ニ) 演芸大会

今年度初めての実施となったが、生徒たちの評価は満足度の高い結果となった。敬愛祭当日の演芸部門鑑賞ができなかった先生方が落ち着いて鑑賞することができたのでよかった。演芸大会から「KI グランプリ」に来年度より名称を変更する。先生たちのサプライズ演奏・歌唱はよかったので来年度も何かサプライズとして実施したい。

ホ) 大縄跳び大会+クイズ大会

大縄跳びは生徒たちも多数楽しんで参加できた。先生たちとの縄跳び対決は好評であった。しかし、先生チームばかりを鑑賞する状況が生まれたので、次年度は検討が必要。今年度は準備時間が少なく、大縄跳び大会としたが次年度から継続してできる種目・イベントを検討していく必要がある。

ヘ) クラブ活動

陸上競技部は全国大会3連覇、空手道部、柔道部の活躍も例年通り全国大会出場を達成する。クラブ活動の活性化に伴い、高体連以外の大会などへの出場基準の検討が必要。部への昇格条件の検討。世界大会等へ参加する生徒の費用について、補助の可否を検討する。

ト) その他

生徒会新聞は各学期に随時発行することができた。次年度以降は積極的に生徒会役員等が自主的に作成できるようにしていきたい。体育祭や文化祭をより生徒たちが満足できるものにするため、文化祭実行委員や、体育祭実行委員などの発足を検討してはどうかと考えている。

5. 進路指導について

平成 28 年度の進路状況 在籍人数 282 名

コース		在籍	四年制大学	短期大学	専門学校	就職	未定
普通科	総合進学	155	54	12	58	22	9
	こども学	48	19	16	7	3	3
	調理・製菓	79	9	24	29	11	6
合計		282	82	52	94	34	18
%			29.1%	18.4%	33.3%	12.4%	6.7%
			80.9%				

イ) 進学指導

平成 28 年度の進路状況は、昨年と比べ、短期大学と専門学校の進学率が上がり、四年制大学進学率と就職率がその分下がった。未定者も減じた。今年度の特徴としては、内部進学者の増加(大

学 18、短大 43、計 61 名) が顕著であった。そのため短期大学への進学率が上がっている。さらに、専門学校進学者が今年度は特に多く、そのほとんどが AO 入試による受験であった。指定校推薦利用者が、全進学において減少した。今後の課題として、低学年からの自己の進路への意識付けをさらに充実させていく必要がある。各生徒が、適性に合った将来を見つけ、それに向かって自主的な努力を積んでいくことで、よりよい進路を得ることができる。そのために進路指導部として、自らの進路と学校生活との結びつきを意識できるような環境を整備し、生徒が希望する学校への進学をより増進していく体制をととのえていきたい。

#### ロ) 就職指導

今年度の就職希望者は、昨年度より減少した。一方、企業からの求人数は増加しており、特に外食産業や建設業、製造業、福祉などの分野における現業職については、年度末まで高卒求人が続々と届いていた。しかし、生徒の多くは、技能を必要とする職に就きたいというものが多く、方向を修正するのに時間を要する場合は散見された。もっと早期からの適性理解と、指導側とのコミュニケーションが必要である。

### 6. 入試広報

#### イ) 中学校訪問

別所副校長、後藤、杉、寺岡、宮里、網田、山田が約 40-50 校を年 2-6 回訪問した。東大阪市、八尾市内の 6 校から進路学習会に呼んでいただき、直接中学 3 年生に学校紹介ができたことが、その学校からの大幅な受験者増につながった。今後もそのような関係の学校を増やすことも大切と考える。

#### ロ) 塾訪問

昨年に続き、入試広報部で割り当てし、1 回の訪問を行った。校舎の引越しで 1 回しか訪問できなかった。塾説明会は開催しなかったが、複数の塾からの問い合わせがあった。新校舎も完成し、竣工式が終わってから次年度は開催していく。

#### ハ) オープンスクール・入試説明会

昨年の約 1550 名と比べ約 1300 名と大幅に減っている。いろいろな要素があるが、回数を 1 回増やしたのに残念な結果となった。申込み方法、告知の方法について今後検討していく。楽しいイベント模擬店やランチの案内を周知してもらえるようにしていく。

#### ニ) 冬休み受験集中講座

2 日間で約 440 名の参加があり、昨年の 580 名から大幅に減少した。受講生からは好評であるが、いろいろな改善点があり、今後検討していく。

#### ホ) 私学展

私学展は 7-8 人体制をとった。入試広報部以外の先生方の協力で充実した私学展となった。また、必要な相談会には人数を増やして参加し、必要ないものは参加しないように厳選した方がよい。

### 7. こども教育コース

#### イ) こども研究科目について

キッズセミナーでは例年通り、レク協会の講師の先生方に来ていただき、毎回の授業で良いものをたくさん提供していただけた。レクシオン実習の授業では、毎年 15 以上のレクシオンインストラクター資格取得申請者があり、レクシオンに対する意識が高いように思えた。大学講義(梅田先生「脳と心」)の方は内容がよく、講義中に寝ている生徒もいなかった。

#### ロ) 幼稚園実習について

とても貴重な経験が出来ている。園児に接する際、授業とは別のいい顔が見られた。今年初めて行った「キッズイングリッシュ」の発表は、とても良い経験となり、普段の英語学習の動機付けとなった。幼稚園の担任によって指導面で大きく異なる。実習の生徒への感想など、現場の先生方

からのフィードバックを聞く機会がほしい。生徒たちによる発表をあまり快く思っていない幼稚園の先生方もいたようだった。

#### ハ) 幼稚園発表会について

今年初めて実施したが、コース行事として実施できてよかった。劇や演奏などの発表の準備に取り組む中で、生徒たちのモチベーションにもつながった。園児たちの反応もとてもよく、喜んでいただけたと思う。

#### ニ) 大学・短大との関わりについて

七夕祭り飾り付けや短大卒業研究発表会に参加し、高大連携ができ、内部進学を意識する生徒が増えたのではないかと思う。内容も良く、卒業生と関わりを持てた貴重な機会となったため、来年度も実施したい。四年制大学との関わりも作っていきたい。

### 8. 調理製菓コース

3年生6月に希望をつのり、各店舗2～3日の職業体験を行った。店舗の種類は色々あったので生徒は自分の興味のある料理の店を選ぶことができた。体験中オーナーの方や料理長と話すこともできたことにより、自分の進路を見直してきっちり考え直した生徒もいた。また、3年生最後の実習で保護者への「感謝の食事会」を実施した。味や盛り付けなどに問題はなく提供できたが、来年は土曜実施となるので、実施内容等再検討が必要である。1学期に“あべの辻調理専門学校”特別講義を受講した。2年生はキッシュ、3年生はマジパンを作った。3学期には“大阪調理専門学校”特別講義で、握り寿司や飾り切りを学習し、普段することがない体験や初めて見る技術にとっても感動していた。生徒からも好評であったため来年度も同様に実施したいと考える。

## 3 財務の概要

別添 平成27年度	資金収支計算書	
	事業活動収支計算書	
	貸借対照表	
	財産目録	
	監査報告書	参照